

価値観に
刺激を
うけよう

Session



特集
01

(株)旭町3丁目不動産 / 代表取締役
竹村 典子

特集
02

企業組合アルバートーザ / 代表理事
永田 順治

特集 01

人を知り、人をつなぐ

3期生（2012年修了）

(株)旭町3丁目不動産
代表取締役

竹村 典子



竹村典子さんは土佐経営塾の第3期生（2012年秋開講）です。3期というのは本山町と土佐市からはじまった経営塾が高知県全域に広がった最初の期であり、東は香南市から西は四万十市まで、受講生が一気に広がった年でした。竹村さんはその年のよきまとめ役を務めてくれた人であり、修了後も、期を超えた修了生コミュニティのつなぎ役として、存在感の大きい修了生の一人です。

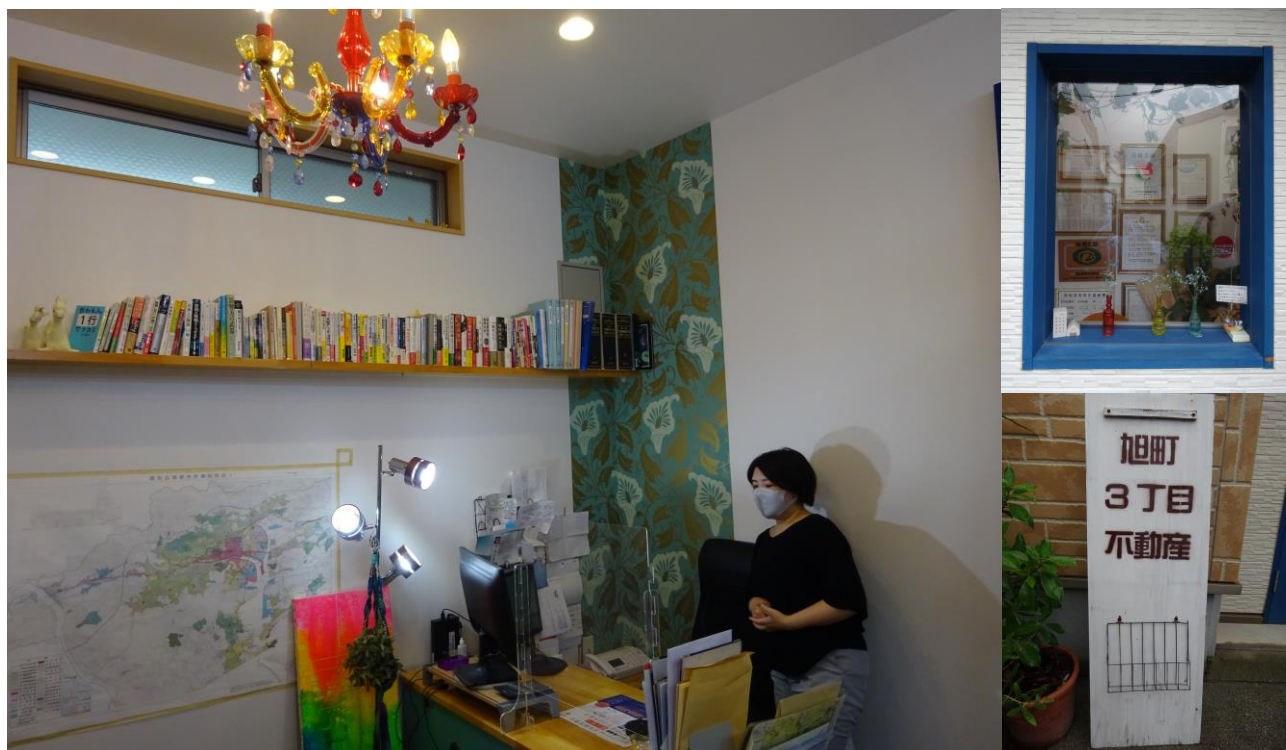
竹村さんは長野県の出身で、最初の就職は長野で、そして東京に転職し、高知に嫁ぎ、すぐにお子さんが誕生し（現在は二人の小学生のお母さんです）、高知での子育て生活がはじまりました。南国らしい陽気な人たちに囲まれて、寂しい気持ちになることなく、本人いわく「気楽に」過ごせたとのことでした。そして、子育てが落ち着いたというわけではないけれど、「何かをはじめること」も考えはじめた竹村さんは、高知に来て4年後に新聞で土佐経営塾のことを知り、早速応募して受講。修了した翌2013年に「旭町3丁目不動産」を開業して、今年で8期目を迎えています。どうしても短命になりがちな小規模事業の中では、もうすでに長寿の部類に入っていると言えます。



ご実家の家業から在庫をもつ商売の難しさを刷り込まれ、最初の職場がプロフェッショナルファームだったことから、若いうちに誇り高き専門職にも触れ、東京での不動産管理会社経験も積んだ竹村さん。そんな彼女が、自宅で子どもの面倒を見ながら取り組める不動産仲介業にたどり着いたのは、とてもリーズナブルに思えました。竹村さんのオフィスは、ご自宅の隅に併設されている、居心地のよいとてもステキな空間です。



特集 01



開業までのプロセスやストーリーがリーズナブルだとは言え、不動産仲介業は参入障壁も低く、数多くの競合事業者の中で生き残っていかなければならない点で、戦略性がカギになる業種のひとつです。竹村さんの場合は、当初、事業者が女性であり、県外出身者であることを積極的に活かす方向で進みました。そんな彼女が最初に打ち出したのは「風水」。ただ、「風水的不動産仲介」というコンセプトは事業を軌道に乗せるための役割は果たしてくれたものの、その先の発展を目指して客層を広げるためには風水への握りを緩めたほうがよいと判断。そこからはインターネット上でのプレゼンス向上に大きく舵を切ります。

勉強熱心でハマり出すと尋常でない力を発揮する竹村さんは、SEO対策をはじめとするユーザーインターフェースの諸改善に突き進み、業界団体の主催するコンテストにも上位入賞するなど、大きな成果を上げてきました。しかし、そんな竹村さんがポツリと言ったのは、「いろいろやってはきましたが、大切なことは、そういう小手先のことではないんですよ」の一言。転居という人生の小さなイベントを、竹村さんの丁寧な対応によって支えられ、癒され、あるいは救われたかもしれないお客さんが、自発的に竹村さんを囲む「竹村会」という活動もあるのだと。「小手先ではない」という彼女の言葉の心地よい余韻とともに、この日のインタビューは終わりました。

竹村さんは8年前の土佐経営塾の思い出を、「経営の勉強も一生懸命したけれど、それよりも人間理解の場だったのかな」と振り返ります。高知に来てまだ日が浅かった彼女にとって、聞き上手で、柔軟で、しかし自分の意見はしっかりと持ち、誰とでも深く付き合おうとしてくれる経営塾の仲間の存在はありがたかったはずです。事業の差別化のための戦略展開の足跡もきちんと残しつつ、「旭町3丁目不動産」を小手先でなく前向きに運営している竹村典子さんのような人が、土佐経営塾の修了生として活躍してくれていることを、改めて嬉しく噛みしめたのでした。

(文：竹内伸一)



株式会社旭町3丁目不動産
〒780-0935 高知県高知市旭町3-103
TEL:088-872-6987
HP <https://asahi3.co.jp/>

特集 02

海を望み、経営に挑む

6期生 (2015年修了)

企業組合アルパトーザ
代表理事

永田 順治



大阪生まれの永田順治さんが高知に住みはじめたのは2015年春のこと。高知への移住は、学生時代からの実に17年越しの夢だったそうです。この間にバイク＆野宿のスタイルで何度となく高知を訪れていた永田さんをそれほどまでに惹きつけていたのは、彼によれば「高知という土壌がもっている精神性とでも言うのでしょうか。中でも坂本龍馬には心酔しています。高知を舞台にした小説も結構読んでいて、本に描かれた光景と実際に訪ねて自分の目で見た光景を重ね合わせて楽しんでいました」ということです。

永田さんのキャリアはミュージシャンからはじまりますが、お金を稼いだのは飲食業が中心でした。高知に来る直前は、都内の4店舗を総括するエリアマネージャーの職にありましたが、「そろそろ高知に発たねば」と思い立ち、高知の求人をチェックしはじめます。そこで目に留まったのが、「土佐市の地域おこし協力隊として観光振興に従事する」という求人でした。名の通った飲食店経営幹部の求人もあった中で、あえて協力隊を選んだのは、「土佐市の地域振興やPRという仕事には、私自身のかつての広告代理店勤務経験にまで遡って、もちろん飲食も含めて、ひと回り大きく貢献できそうだという予感があったことと、新しいことにチャレンジしたいという気持ちからだだったと思います」とのことでした。こういう言葉にはとても納得感がありますよね。それで永田さん、すぐに採用されます。

土佐市に来ての印象は「飲み会が多いな」でした。このコメントにも納得感はありませんが、お酒が得意でない永田さんには試練だったかもしれません。でも、年齢的にも成熟してからの着任であったこともあってうまく乗り切り、市役所関係者や地元の人たちとの交流の機会をもつための最短距離をうまく歩めた、ということだったのでしょ。



特集 02



永田さんに課されたミッションに、「仁淀川河口海岸に建設される市の施設に、地元住民が出店を計画している飲食店があるので、その運営サポートに当たる」というものがありました。しかし、その話が進むにつれ、出店から経営全般を主導できる人が不在という問題が現れます。そして地元住民や市と協議を重ねる中で、協力隊の永田さんが中心となって計画を進めるしかないというムードに。この大役を担い、経営をやり切るしかなかった永田さんには、土佐経営塾の受講も重要な公務となりました。永田さん、そこで相当勉強します。

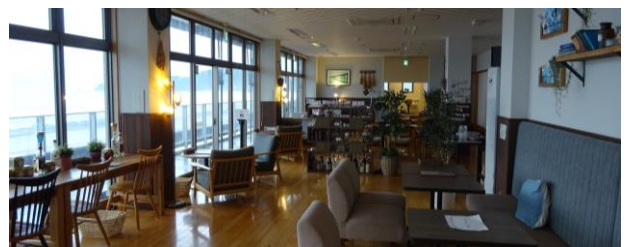
でも、永田さんはもともと飲食店経営のフィールドでは、複数拠点のマネジメントのマネジメントを任されるほどのプロ（厳しめに見てもセミプロ）であり、そんな彼が経営塾で何を学んだというのか、少し気になりますか。それについて永田さんは、「経営塾では経営管理のより上位レイヤーのことを学んだ」と言います。それは、「人への指示や店のオペレーションなどの下位レイヤーのことを超えて、経営全体をグリップすることであり、キャッシュを捉えることでもあり、人材育成を同時に進めることでもある」のだと。そしてこうした意識は「多額の公金を預かっているという事実にも支えられている」とも言い切ります。「公人」の覚悟をも感じますね。

こうして開業した「Cafe Niil Mare」ですが、抜群のオーシャンビューを誇る一方、夜は灯り

ひとつない漆黒の闇にもなる二面性のあるロケーションと向き合うべく、2016年4月のスタート以来さまざまなトライアルを続けて現在に至っています。曜日ごとの営業時間、ディナーへの注力度、モーニングメニューへの注力度、物販のミックスなど、永田さんはさまざまな変数による店舗経営モデルをさまざまな試し、ついに黒字経営像を探し当てました。

そんな彼は現在、市内の別の交流施設である「ドラゴン広場」の経営管理も手掛けています。ひとつ成し遂げた人のもとには、自然と次のひとつがまた舞い込んでくるものです。そしてそうした周囲の期待に応え続けることではじめて、そう簡単には損なわれることのない信頼が形づくられていくのでしょうか。永田順治さんのチャレンジはまだ続きます。

（文：竹内伸一）



企業組合アルパトーザ Cafe Niil Mare
〒781-1154 高知県土佐市新居38-33 2F
TEL:088-856-5861
HP <https://niilmare.com/>

TOPICS

令和2年度「土佐経営塾」 受講生募集のお知らせ

土佐経営塾の受講生を
絶賛大募集中です！
詳細はHPをご覧ください！



**土佐経営塾で
鍛えぬく
3つのチカラ**

2020 土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）開校
「土佐経営塾」受講生募集

10/29(木) 19:00～20:00
11/06(土) 11:30～14:30

はじめて。美。

学校を卒業して以来、
こんなに勉強したのは

2020 土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）開校
「土佐経営塾」受講生募集

10/29(木) 19:00～20:00
11/06(土) 11:30～14:30

はじめて。美。

学校を卒業して以来、
こんなに勉強したのは

土佐経営塾ってどんな講座？

経営者は、日々の経営活動から事業の成長を支える情報源です。各社の社長、役員、社員はそれぞれ、
事業の成長を支えるための様々な役割を担っています。その中でも、最も重要な役割は「経営者」です。
経営者は、事業の成長を支えるための様々な役割を担っています。その中でも、最も重要な役割は「経営者」です。

セッション	日時	講師	テーマ
セッション1	12/6(日) 13:30～17:00	横濱氏「経営者の役割について考える」	
セッション2	12/14(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション3	12/21(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション4	12/28(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション5	1/11(月) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション6	1/17(日) 13:30～17:30	「経営者の役割について考える」	
セッション7	1/23(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション8	1/29(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション9	2/5(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション10	2/12(日) 19:00～21:00	「経営者の役割について考える」	
セッション11	2/19(日) 13:30～17:00	「経営者の役割について考える」	

終了後

「経営への道」をテーマとして、各社の社長、役員、社員が参加します。

申込方法

土佐経営塾ホームページより
申込書をダウンロード
申込書に必要事項を記入し、
10/29(木) 19:00～20:00
11/06(土) 11:30～14:30
のいずれかで申込書を提出してください。

講師紹介

横濱 正志
経営者としての経験が豊富で、経営者の役割について詳しく解説します。

竹内 雅夫
経営者としての経験が豊富で、経営者の役割について詳しく解説します。

同窓会だより



土佐経営塾10期生
同窓会幹事
宮地電機株式会社
常務取締役 営業本部長

宮地 宏明

「かけがえのない学びと出会い」

私の会社、宮地電機(株)は電気工事資材やインテリア商材を販売しています。また大橋通の「ラ・ヴィータ」で、飲食やウエディング事業も手がけています。私たち10期生は個性派ぞろいの18人。楽しくも難しくもあったのは、何と言っても「カフェβ」。4グループに分かれて、夜や休日を使って発表準備をしましたが、なかなか意見がまとまらず苦戦しました。他グループの発表を聞きながら、経営の本質を学んで掴むことさえできれば、手段が適切かどうかを判断できるようになると感じました。

10期生は修了後もグループLINEでお互い近況報告をしていますし、田村先生を交えて9期生との合同情報交換会も開催しました。「Session」の創刊や定期的なZoomミーティングを通じて、修了生の皆様と接点を持てるのを嬉しく思います。

老若男女を問わず、土佐経営塾で学んだ修了生が、これからの高知を自らの手で元気にしてゆきましょう！

教えて！

竹内先生の「この本 読んでみたら？」

『Think Civility「礼儀正しさ」こそ最強の生存戦略である』

クリスティーン・ポラス 著、夏目大 訳 東洋経済 (2019)

「討論授業をよりよいものにするためには、「勇気」「礼節」「寛容」の三つの徳を重んじるべし」と経営塾のどこかで触れたことを覚えていますか。本書はそのうちの「礼節」の的を射抜いた本と言えるでしょう。著者のクリスティーン・ポラスはジョージタウン大学ビジネススクールのテニユア教授で、礼節を重んじることが、道徳的に善く正しいのみならず、企業の利益をも押し上げることを実証した気鋭の経営学者です。分別のある人ならば、他者に対して礼儀を尽くすべきことは、本を読むまでもなく分かっていることですが、こうした「真理」に対して、学者はどのように科学のメスを入れるのか。そして、メスで切ったその切口は、私たちに何を語りかけるのか。秋の夜長に「礼儀」という「言わずもがな」を科学する時間をつくってみるのも悪くないと思います。

Another Story

～ 土佐経営塾を支えた人 ～

このコーナーは「土佐経営塾を支えた人」ですが、私にとっては「土佐経営塾に支えられた」1年でした。

大学から県へ出向してきて1年目、何をするにも一人では分からないことばかり。そんな中で唯一担当させていただいた連続講座が土佐経営塾でした。土佐市や本山町で開催された期間を含めると10年も続く伝統の講座、そして錚々たる修了生の皆さま…前任から引継ぎを受けながら感じた絶対に失敗できないプレッシャーは、今思い出しても胃がキュッととなります（笑）。

無事に10年目の土佐経営塾を開催できたのは、竹内先生や田村先生、修了生の皆さま、そして何より10期生の皆さまのおかげに他なりません。多忙なお仕事の合間を縫って必死に学ばれる10期生の皆さまの姿には本当に刺激を頂きましたし、修了生発表会を初めて同窓会主催で行うにあたっては大奈路会長はじめ修了生の皆さまの頼もしさとパワフルさを感じ、土佐経営塾に関わらせていただけることを誇らしく思いました。

修了式で撮った10期生の皆さまの表現し尽くせない達成感に満ちたお顔は、その後の仕事で行き詰まるたびに私の背中を押してくださっています。ココプラでの仕事が2年目に入った今日、新型コロナウイルスの影響で各講座の在り方が問われていますが、土佐経営塾での経験があるからこそ「誰のための講座か」という問いに迷いはありません。10期生はじめ修了生の皆さまのお顔を思い出しながら、「どうすればこの方たちの役に立つ講座になるか」を考え抜く毎日です。

ココプラは今年度で最後、次年度からは大学へ戻る予定です。これからも土佐経営塾の1ファンとして修了生の皆さまのご活躍を拝見しつつ、次に皆さまにお会いした時にも恥ずかしくない仕事をしてまいりたいと思います。



経営塾10期担当

武市 理佐

現在：高知県産学官民連携センター

（高知県公立大学法人

高知県立大学より出向）

編集後記

皆さまのご協力のもと、土佐経営塾通信「Session」第2号を発行することができました。お読みいただいて、どのような感想をお持ちになったのでしょうか？

今回は、旭町3丁目不動産の竹村さん、Cafe Nii Mareの永田さん取材させていただきました。ご自身の過去、現在、そして未来について語るお二方の姿は、まぶしくもあり頼もしくもありました。この取材の中で、竹村さんの「（受講した土佐経営塾は）経営の勉強も一生懸命したけれど、それよりも人間理解の場だったのかな」と仰っていたことが印象に残っています。

創刊号の編集後記でも書きましたが、この土佐経営塾通信には、「修了生・講師・運営者・受講希望者を結ぶ「メディア」としての機能を果たす」という期待を込めています。この「メディア」という言葉を辞書で引くと「媒体」「手段」と説明されています。更に「メディア」の語源まで調べると、「ラテン語のmedium（メディウム）から派生した言葉で、『中間』や『介在』を意味する言葉として用いられていた」とのことです。

土佐経営塾通信は、間違いなくその「メディア」としての機能を果たす位置づけですが、竹村さんの「土佐経営塾は人間理解の場だった」というご発言から、（もしかしたら「土佐経営塾」自体が受講生同士をつなぐメディアなのかもしれない。そうであるならば…）と妄想を膨らませています。

次号もご期待ください。

（文：田村樹志雄）